

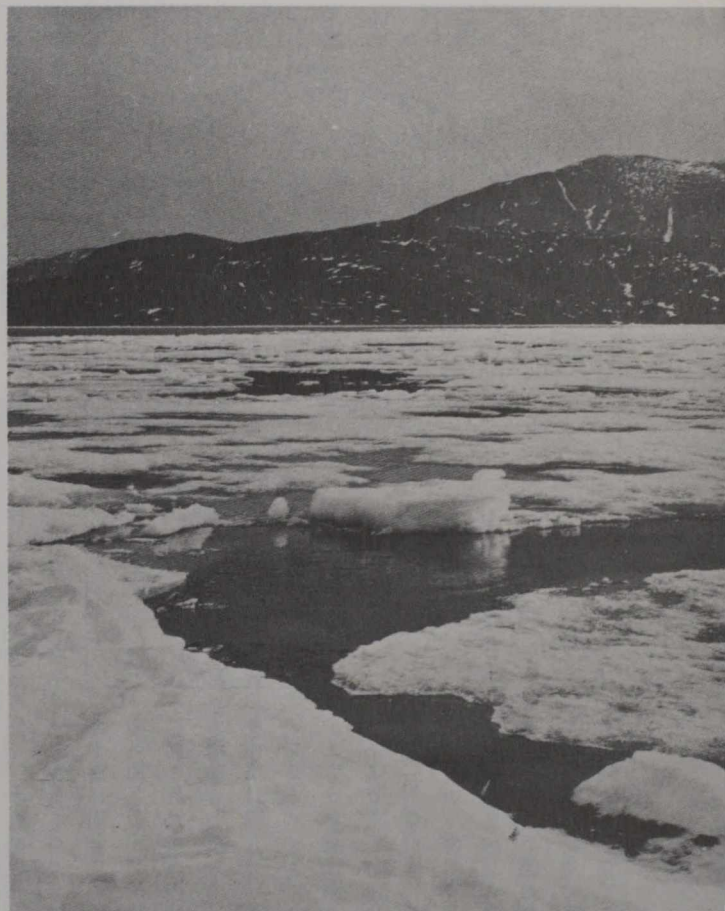
の山々に匹敵するものは何もないけれども、大方の人々にとつては未知の存在だ。これらの山々は、北方の東壁をなしている。

ずつと西へ進んで、マッケンジー川を越えると、連山また連山と続く。その尾根をなすセント・エリ阿斯中央山塊の山は、六千メートル以上に及び、その頂きは氷河におおわれている。北方の西壁である。

これら二つの壁の間には、すりへらされ、またくぼみだらけのカナダ楯状地が不規則に広がる。地球上最古の部類に入る岩石でできていて、カナダ楯状地は、何百万年もかけて侵食されたために、昔の雄峰はすっかり滑らかにされて、起伏した丘として残っているのみである。それが、ツンドラやタイガでおおわれた地表をデコボコにしている。

この楯状地帯には、地球最大の湖水群もある。楯状地の西端とユーコン山系の間には、北アメリカの中央大平原から北上してのびるタイガ低地の地溝が大きく広がる。勇壮なマッケンジー川が、ピース川、リアード川、およびその他多くの河川の水を、この地溝を通じて北極海へ運ぶ。

大陸の北側には、世界最大の島嶼群を形成し、何千平方キロもの陸地を占めるカナダ北極諸島が並ぶ。これらの島々も多種多様だ。山岳の多い島もあれば、海面すれすれの低い草原になっているものもある。島々の周囲は入江や海峡がシグザグに入り組んでいて、まるで迷路だ。これらの島々の沿岸線の長さは、全体で約一万六千キロ。地球の円周よりも長い。



カナダの北方領域には、ハドソン湾を含む大きな内海もある。そこは、英国諸島が跡かたもなく消えてしまうほどの広さだ。

北方地域の東側にはラブラドル海流があつて、膨大な量の氷を運んでバフィン湾からノバ・スコシアまでのびるデイス海峡へと流れる。北極海も一種の「陸地」といえよう。つねに氷におおわれている、氷は動いているけれども、人びとはその上を旅し、飛行機も離着陸するからである。

北方の骨組みをなすカナダ楯状地は、五百万年にはなるだろうけれども、陸地の多くは新しくみえる。それは極北西の部分を除いて、わずか十万年前にはすべて巨大な氷原の下に埋まっていたからである。キークティン氷河は、円頂部で一キロ以上の厚さに達していたこともある。そのあまりの重みで氷はアメ状となり、

円頂形になった中央部から四方八方へどんどん移動していった。氷河は、移動しながら、古代の岩石をえぐり、表土層をそぎとり、そのあとに水をたたえた谷間や盆地、深く切りこんだ沿岸のフィヨルドを残していった。

氷がとけてしまうと、陸地は氷河の堆積物がちらかり、堆石のうねや丘陵（ドラムリン）、それに砂や小石の長く、曲りくねったエスカ（堤防状の丘）がむき出しの骨格に複雑な模様をつけた。

氷原の形跡は今でも残っている。東部山岳では、およそ二万三千平方キロもの氷河が山壁や谷間をおおっている。西部の山々でも、氷河はまだ名残りをとどめている。

氷河期の厳しい気候は、目に見えないもうひとつの結果をもたらした。氷河の下の岩石が冷凍されて、永久凍結土になったのである。これは、極北の島々では、

太古の岩石に深さ五百メートルも入りこんでいる。かなり南に位置するマニトバ北部でさえも、古代凍結層は、わずかにメートルの地下に残っている。表土層は夏になるととける。

北方の気候があまりに厳しく、北極グマとエスキモー以外には耐えられない、という神話もなかなか消えない。ところが、北方で最悪の気候といつても、西部平原の冬の大吹雪と大差ない。サスカトワンやウイニペグで一冬の間耐えた北方の住民が、北方を「バナナ・ベルト」（熱帯）と呼んだ、といわれるぐらいである。

北方は、驚くほど雨や雪が少なく、乾燥した世界である。真冬の雪は、北方の各地よりもオタワやトロントのほうが多くつるほどだ。北方の冬がさわやかだとは、イエローナイフ（北西準州の首都）商工会議所でさえ言うまいが、トロントの冬より厳しいというほどではない——もつとも長いことは長い。夏は場合によつては快適だ。本当の季節は、夏と冬の二つしかない。その間のつなぎの季節は、あつという間の短かさだ。

北極圏の北では、真夏の太陽は沈むことがなく、気温は毎日、華氏六〇度（摂氏一五度）代か、それよりもつと暖かくなる場合もある。北極圏から北の冬は、太陽が何週間、あるいは何か月も消えてしまう。もつとも、この「長夜」がまったく暗になることは、ほとんどない。北極光（オーロラ）があたりいつばいに輝き、すみきった空に星がまばたき、月もこうこうと地上を照らす。普通に動き回るのは、じゅうぶんの明るさである。